

まえがき

2017年3月に、新しい学習指導要領が告示されました。それに伴い、2018年度から2020年度は移行措置期間として、各学年の指導について、全部または一部について新学習指導要領による教育課程が実施されます。

今回の改訂では、AI（人工知能）の飛躍的進化などにより社会構造や雇用環境が劇的に変化することが予想される中で、実社会・実生活の高度な問題解決に必要な「資質・能力」の育成が大きく掲げられています。一方で、先生方の世代交代が進んでおり、これまでの教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかという課題にも対応するため、その内容も構造も、大きく様変わりした改訂となりました。

新学習指導要領は、2018年から先行実施、そして2021年からは完全実施となります。指導にあたっては、新学習指導要領に示されている内容を読み込んで適切に理解し、その趣旨を生かした授業を展開することが必要です。

そこで本冊子は、新学習指導要領の改訂にあたって新しく入った項目を使った題材例を7つ掲載しています。学習指導計画では学習活動を行う上で、どんな教材・教具が使用されるか一目でわかるよう示しています。

本冊子が「資質・能力」の育成のための学習活動が展開できる学習題材の設定の参考になれば幸いです。

2018年3月

編著者一同

家庭分野 学習指導要領

中学校技術・家庭「家庭分野」新学習指導要領・現行学習指導要領の内容項目一覧

新学習指導要領（平成 29 年 3 月）
<p>A 家族・家庭生活</p> <p>(1) 自分の成長と家族・家庭生活 ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わり，家族・家庭の基本的な機能について，家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む</p> <p>(2) 幼児の生活と家族 ア (ア) 幼児の発達と生活の特徴，家族の役割 (イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方の理解 イ 幼児とのよりよい関わり方について考え，工夫</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり ア (ア) 家族の互いの立場や役割，協力することによって家族関係をよりよくできる (イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり，高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解 イ 家族関係をよりよくする方法，高齢者など地域の人々と関わり，協働する方法について考えの工夫</p> <p>(4) ア 家族・家庭生活についての課題と実践</p>
<p>B 衣食住の生活</p> <p>(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 ア (ア) 生活の中で食事が果たす役割 (イ) 中学生に必要な栄養の特徴，健康によい食習慣 イ 健康によい食習慣</p> <p>(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 ア (ア) 栄養素の種類と働き，食品の栄養的特質 (イ) 中学生の 1 日に必要な食品の種類と概量，1 日分の献立 イ 中学生の 1 日分の献立</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア (ア) 日常生活と関連付け，用途に応じた食品の選択 (イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理 (ウ) 材料に適した加熱調理の仕方，基礎的な日常食の調理 (エ) 地域の食文化，地域の食材を用いた和食の調理 イ 日常の 1 食分の調理について，食品の選択や調理の仕方，調理計画</p> <p>(4) 衣服の選択と手入れ ア (ア) 衣服と社会生活との関わり，目的に応じた着用，個性を生かす着用及び衣服の適切な選択 (イ) 衣服の計画的な活用の必要性，衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ イ 衣服の選択，材料や状態に応じた日常着の手入れ</p> <p>(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア 製作するものに適した材料や縫い方，用具を安全に取り扱い，製作 イ 資源や環境に配慮し，生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画，製作</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方 ア (ア) 家族の生活と住空間との関わり，住居の基本的な機能 (イ) 家庭内の自己の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方 イ 家族の安全を考えた住空間の整え方</p> <p>(7) ア 衣食住の生活についての課題と実践</p>
<p>C 消費生活・環境</p> <p>(1) 金銭の管理と購入 ア (ア) 購入方法や支払い方法の特徴，計画的な金銭管理の必要性 (イ) 売買契約の仕組み，消費者被害の背景とその対応，物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理 イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入</p> <p>(2) 消費者の権利と責任 ア 消費者の基本的な権利と責任，自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響 イ 身近な消費生活について，自立した消費者としての責任消費行動</p> <p>(3) ア 消費生活・環境についての課題と実践</p>

※枠囲みは選択事項。3 学年間 1 項目以上を選択。その際，他の内容と関連を図る。

現行学習指導要領（平成 20 年 3 月）
<p>A 家族・家庭と子どもの成長</p> <p>(1) 自分の成長と家族 ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり</p> <p>(2) 家庭と家族関係 ア 家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域とのかかわり イ これからの自分と家族，家族関係をよりよくする方法</p> <p>(3) 幼児の生活と家族 ア 幼児の発達と生活の特徴，家族の役割 イ 幼児の観察や遊び道具の製作，幼児の遊びの意義 ウ 幼児との触れ合い，かかわり方の工夫 エ 家族又は幼児の生活についての課題と実践</p>
<p>B 食生活と自立</p> <p>(1) 中学生の食生活と栄養 ア 食事が果たす役割，健康によい食習慣 イ 栄養素の種類と働き，中学生の栄養の特徴</p> <p>(2) 日常食の献立と食品の選び方 ア 食品の栄養的特質，中学生の 1 日に必要な食品の種類と概量 イ 中学生の 1 日分の献立 ウ 食品の選択</p> <p>(3) 日常食の調理と地域の食文化 ア 基礎的な日常食の調理，食品や調理用具等の適切な管理 イ 地域の食材を生かした調理，地域の食文化 ウ 食生活についての課題と実践</p>
<p>C 衣生活・住生活と自立</p> <p>(1) 衣服の選択と手入れ ア 衣服と社会生活とのかかわり，目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 イ 衣服の計画的な活用や選択 ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ</p> <p>(2) 住居の機能と住まい方 ア 住居の基本的な機能 イ 安全な室内環境の整え方，快適な住まい方の工夫</p> <p>(3) 衣生活，住生活などの生活の工夫 ア 布を用いた物の製作，生活を豊かにするための工夫 イ 衣生活又は住生活についての課題と実践</p>
<p>D 身近な生活消費と環境</p> <p>(1) 家庭生活と消費 ア 消費者の基本的な権利と責任 イ 販売方法の特徴，物資・サービスの選択，購入及び活用</p> <p>(2) 家庭生活と環境 ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践</p>

※枠囲みは選択事項。3 学年間で 1～2 項目を選択。

3年間の指導計画例

週(時)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年 35時間	B 衣食住の生活 食生活																																		
	家庭分野ガイダンス A 家族・家庭生活																	調理をしよう																	
	1 わたしたちと家族・家庭と地域 わたしの成長と家族・地域 ①家庭のはたらき 2 幼児の生活と遊び ①わたしの成長をたどる																	1 調理の計画 ②調理の基本 ③肉の調理 ④魚の調理 ⑤野菜の調理																	
	2 健康と食生活 ①食事の役割について考える ②生活習慣と食事 ③中学生に必要な栄養 ④食品と栄養素																	2 食品の選択と保存 食品が食卓にのぼるまで ①生鮮食品と加工食品 ②食品の表示 ③生鮮食品と加工食品の表示 ④食品の選択・購入と保存 ⑤食品の安全と情報																	
	3 健康と食生活 ①食事の役割について考える ②生活習慣と食事 ③中学生に必要な栄養 ④食品と栄養素																	3 調理をしよう ①調理の計画 ②調理の基本 ③肉の調理 ④魚の調理 ⑤野菜の調理																	
学習内容	①わたしの成長と家族・地域 ②家庭のはたらき 2 幼児の生活と遊び ①わたしの成長をたどる																	①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	
授業時数	2 (1)																	13																	
学習指導要領	A(1)ア (3)ア(イ), (3)イ																	B(3)ア(イ), (3)ア(ウ), (3)ア(エ), (3)イ B(3)ア(エ)																	
教科書担当員	2～21																	94～135																	
2年 35時間	B 衣食住の生活 衣生活																																		
	1 日常着の活用																	2 日常着の手入れ																	
	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	1 日常着の活用 ①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	2 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	1 自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	2 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
学習内容	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①製作しよう ②生活の課題と実践																	
授業時数	8																	2																	
学習指導要領	B(4)ア(ア), (4)ア(イ), (4)イ, C(2)ア, (2)イ																	B(5)ア, (5)イ, C(2)ア, (2)イ																	
教科書担当員	166～189																	246～257																	
3年 17.5時間	A 家族・家庭生活																																		
	1 幼児の生活と遊び																	2 幼児とのふれ合い																	
	②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
	1 幼児の生活と遊び ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	2 幼児とのふれ合い ①ふれ合い体験の前に ②ふれ合い体験をする ③ふれ合い体験のふり返し																	
	2 幼児の生活と遊び ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
学習内容	②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
授業時数	8																	7																	
学習指導要領	A(2)ア(ア), (2)ア(イ)																	A(2)イ																	
教科書担当員	24～41																	42～49																	
3年 17.5時間	B 衣食住の生活 衣生活																																		
	1 日常着の活用																	2 日常着の手入れ																	
	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	1 自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	2 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	2 幼児の生活と遊び ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
学習内容	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①製作しよう ②生活の課題と実践																	
授業時数	8																	2																	
学習指導要領	B(4)ア(ア), (4)ア(イ), (4)イ, C(2)ア, (2)イ																	B(5)ア, (5)イ, C(2)ア, (2)イ																	
教科書担当員	166～189																	246～257																	
3年 17.5時間	A 家族・家庭生活																																		
	1 幼児の生活と遊び																	2 幼児とのふれ合い																	
	②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
	2 幼児の生活と遊び ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	1 自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	
学習内容	②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
授業時数	8																	7																	
学習指導要領	A(2)ア(ア), (2)ア(イ)																	A(2)イ																	
教科書担当員	24～41																	42～49																	
3年 17.5時間	B 衣食住の生活 衣生活																																		
	1 日常着の活用																	2 日常着の手入れ																	
	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	1 自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	2 日常着の手入れ ①衣服の汚れと手入れ ②衣服の素材と手入れ ③衣服の洗濯 ④衣服の収納・保管 ⑤衣服の補修 ⑥環境に配慮した衣生活																	
	2 幼児の生活と遊び ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④幼児の心身の発達と家族の役割 ⑤子どもの成長と地域 ⑥幼児の遊びと発達 ⑦幼児の遊びを支える																	3 これからのわたしと家族 ①中学生と家族とのかかわり ②これからのわたしと家族との関係 世代を超えた人びとと交流して																	
学習内容	①自分らしくコーディネート ②衣服のはたらき ③衣服の構成 ④衣服の入手計画と選び方																	①製作しよう ②生活の課題と実践																	
授業時数	8																	2																	
学習指導要領	B(4)ア(ア), (4)ア(イ), (4)イ, C(2)ア, (2)イ																	B(5)ア, (5)イ, C(2)ア, (2)イ																	
教科書担当員	166～189																	246～257																	
3年 17.5時間	C 消費生活・環境																																		
	1 家庭生活と消費																	2 商品の選択と購入																	
	①家庭生活と消費 ②消費生活のしくみ ③商品の選択と購入 ④商品購入のプロセス ⑤生活情報の活用 ⑥購入方法と支払い方法 ⑦よりよい消費生活のために ⑧契約と消費生活トラブル																	1 住まいのはたらき ①住まいの様々な役割 ②共に住まう 健康で安全な住まい ③家族の健康と室内環境 ④住まいと地域 ⑤災害への備え ⑥災害時の住まいと暮らし ⑦地域に配慮した住まい方 これからの衣生活と環境																	
	1 家庭生活と消費 ②消費生活のしくみ ③商品の選択と購入 ④商品購入のプロセス ⑤生活情報の活用 ⑥購入方法と支払い方法 ⑦よりよい消費生活のために ⑧契約と消費生活トラブル																	2 商品の選択と購入 ①商品の選択と購入 ②商品購入のプロセス ③生活情報の活用 ④購入方法と支払い方法 ⑤よりよい消費生活のために ⑥契約と消費生活トラブル																	
	2 商品の選択と購入 ①商品の選択と購入 ②商品購入のプロセス ③生活情報の活用 ④購入方法と支払い方法 ⑤よりよい消費生活のために ⑥契約と消費生活トラブル																	3 住まいのはたらき ①住まいの様々な役割 ②共に住まう 健康で安全な住まい ③家族の健康と室内環境 ④住まいと地域 ⑤災害への備え ⑥災害時の住まいと暮らし ⑦地域に配慮した住まい方 これからの衣生活と環境																	
学習内容	①家庭生活と消費 ②消費生活のしくみ ③商品の選択と購入 ④商品購入のプロセス ⑤生活情報の活用 ⑥購入方法と支払い方法 ⑦よりよい消費生活のために ⑧契約と消費生活トラブル																	1 住まいのはたらき ①住まいの様々な役割 ②共に住まう 健康で安全な住まい ③家族の健康と室内環境 ④住まいと地域 ⑤災害への備え ⑥災害時の住まいと暮らし ⑦地域に配慮した住まい方 これからの衣生活と環境																	
授業時数	6																	4																	
学習指導要領	C(1)ア(ア), (1)ア(イ), (1)イ, C(2)ア, (2)イ																	C(2)ア, (2)イ																	
教科書担当員	212～227																	148～165																	
3年 17.5時間	D 地域生活・食文化																																		
	1 地域の食材と郷土料理																	2 受け継がれる食文化																	
	①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	
	1 地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	2 受け継がれる食文化 ①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	
	2 受け継がれる食文化 ①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	3 地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	
学習内容	①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	①地域の食材と郷土料理 ②受け継がれる食文化																	
授業時数	136～139																	228～245																	

1. 学習の目標

自分の成長と家族のかかわりに関心をもち、家族や家庭の機能を理解し、中学生が家族の一員として行える家庭の仕事や自分の課題に気づき、意欲をもって自立や共生する力を身に付けるために3年間の学習の見通しをもつ。

- ・自分の成長を振り返り、家庭や家族の機能を知り、生活に必要な知識や技術について理解する。 【知識・技能】
- ・学習内容と自分の生活を関連させ、自身の課題に気づき、3年間の学習の見通しをもつ。 【思考力・判断力・表現力】
- ・自分の成長と家族や周りの人とのかかわりに関心をもち、自立や共生することに意欲をもって学ぼうとする。 【学びに向かう力・人間性】

2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導のポイント (○対話的◎主体的●深い学び)	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1時間	ガイダンス 3学年間の学習を理解し、 自分の生活と関連させ、自 己の課題を設定する。 ・自分のできること、でき ないことをチェックし、自 分自身のことを理解する。 ・ワークシートにこれから の自分の課題と目標を記 入する。 ・生徒同士で発表し合い、 課題の実現に向けての方 法を考える。	小学校家庭科の学習を踏まえ て、3学年間の学習と時間 についてガイダンスを行う。 ◎自分のできること、でき ないことをチェックさせ、自 分の生活を工夫改善できる よう、一人一人の課題と目 標を立てさせる。 ○他の生徒と自分の目標を発 表させ、質問や意見を出し 合い、互いの課題と目標を 実現するための方法を多 面から考えさせる。	プレゼン用ファイル (3学年間の家庭分 野での実習の様子や 製作物の写真等をま とめたもの) ワークシート (小学校の学習の振 り返りができるも の)	自分の成長を振り返 り、家庭や家族 の機能を知り、生 活に必要な知識や 技術について理解 する。 【知識・技能】
計画	1時間	・自分の成長を振り返り、 家庭や家族の機能につ いて理解し、自分ができ ることは何かを考える。 ・家庭生活に必要な知識や 技術を家庭分野のどの時 期にどう身に付けるかを 知り学習の計画を立てる。	◎自分の家庭や家族、周りの 人に支えられて成長したこ とに気づき、家庭の機能に 触れ、これからの学習や生 活に主体的に取り組む態度 を養う。 ○グループ学習 生徒同士で、自分の気づき を話し合い、自分の目標や 学び方に他者の意見を取り 入れてより良く改善させる。	ガイダンス・3学年 間のイメージできる ワークシート『3年 間を通してなりたい 自分』(これからの 学習をイメージでき る図等も入れてお く)	家庭分野の学習を 生活と関連させ、 これからの学習で 自分の課題を設定 し、3学年間の学 習の見通しをも つ。 【思考力・判断力・ 表現力】
実践 および 評価・ 改善	○時間	ガイダンスワークシートの記 入と評価 ・3学年間で学ぶことがわか るイメージマップ『3年 間を通してなりたい自分』 に、毎回の学習で目標確 認や振り返りをし、自己 評価をして、その状況に 応じ修正加筆して内容を 改善していく。	学習指導要領 A(2)(3)の 学習時に導入で扱う。 ●3学年間の学習に見通しを もち、※毎回の学習で課題 を確認し、振り返る。さら に生活の課題と実践など を通して学校以外の場面 でも学んだことを活用 できるようにする。	振り返りカードまた は自己評価票	自分の成長と家族 や周りの人とのか かわりに関心をも ち、自立や共生す ることに意欲をも って学ぼうとす る。 【学びに向かう力・ 人間性】

※注(1年生～3年生の学習の中でその都度確認すると良い。)

3. 学習指導計画の解説

●題材設定の理由

家庭分野の学習のねらいは、生徒の生活の基盤となる家庭や家族の機能を理解し、衣食住等の生活にかかわる基礎的・基本的な知識や技術を習得することによって、生活の自立をめざし、家庭生活をより良く豊かに創造しようとする能力や態度を育成である。そのため、3学年間の学習を通して、身に付けたい資質・能力を明らかにし、自己の生活と関連させ、自分自身で課題に気づき、解決していこうとする主体的な学びになるような工夫が必要になる。また、生徒自身の成長を振り返りつつ、家庭や家族の機能を理解

し、生徒自身の日々の生活場面とつなげるが、プライバシーに十分に配慮しなければならない。家庭や家族が多様化し、各家庭の独自の価値観等がある。それぞれが多様な価値観の中では、生活の基礎・基本の理解や一般化はいつそう難しくなっている。そこで、アクティブラーニングの取り組み等から、自分以外の人達の生き方にも触れるような工夫が必要になる。多様な生活の仕方にも興味をもち、自分自身の生活に新たな考えや生き方を取り込み、より良く生活を工夫創造し生活を改善する力を付けたい。

4. 使用教材・ワークシート例、または題材・活動例

小学校の学習の振り返りワークシート例

<p>自分ができることの確認</p> <p>1年 組 番 氏名</p> <p>小学校で学んだことやできるようになったこと</p> <p>消費・環境</p> <p>例 一人で買い物に行く。</p> <p>表示をみることができる。</p> <p>衣生活</p> <p>食生活</p> <p>例 包丁が使える</p> <p>住生活</p> <p>家族のこと</p>
--

ガイダンス・ワークシート例

3学年間を通して	1年	組	番
	氏名		
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>なりたい自分</p> </div>			
<p>そのためには何をやる</p>			
<p><目標></p>			
消費・環境			
衣生活			
食生活			
住生活			
家族			

ふり返しカード例 3学年間の学びのあゆみ できるようになったことを入れてみよう。

	1学年	2学年	3学年	目指す姿
消費・環境				
衣生活				
食生活				
住生活				
家族のこと				
1年間 ふり返し				

～私たちの家庭生活や 地域とのかかわり～

1. 学習の目標

< 知識・技能 >

- ・ 家族が互いの立場や役割を担って、協力することで家族関係がよりよくできることを理解する。
- ・ 家庭生活は地域との相互関係で成り立っていることが分かり、地域の人々と協働する方法や介護など高齢者とのかかわり方について考えることができる。

< 思考力・表現力・判断力 >

- ・ 家族や高齢者など地域の人々とのかかわりを通して、お互いに尊重し合うことの大切さや将来を展望することの大切さを考える。

2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生と家族のかかわりについて考えよう。 ・中学生ってどのような時期だろう：人の一生の中で中学生という時期の特徴を押さえる。 ・学校生活が忙しくなる一方、地域とのかかわりは薄れる中学生の実態を考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活や家庭生活中で中学生になって変わったと思うことを挙げさせる。 ・これまでの生活で家族にしてもらって嬉しかったことを挙げさせる。 ・中学生は学校のことで忙しくても家庭生活は維持されているのは何故か考えさせる。 	ワークシート グラフなど、パワーポイントで示せるとよい	< 知識・理解 > 自分の発達段階を客観的に考えることから、家族が互いの立場や役割を担って協力することを理解する。
計画	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭のはたらきを知って将来の自立につなげよう。 ・家庭生活を支える仕事について考えよう ・家庭の仕事の社会化について考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住生活に関するその他、年少者の世話、高齢者や疾病者の介護など、家族のための仕事は、家族が互いの立場や役割を踏まえて協力して行う必要があることを理解させる。 ・家庭の仕事の社会化が生活にゆとりを与え、家族の行動の幅を広げていることに気付かせる。 	ワークシート 家庭のはたらきを考えさせる場面では、災害に遭った人の家族のだんらんの場合、家庭を失ったことを紹介するので配慮を要する。	< 知識・理解 > 家事労働を重荷になっている人を自覚することから協力することで家族関係がよくなることを理解する。
実践 および 評価・ 改善	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭生活と地域とのかかわりについて考えよう。 ・過ごしやすい地域は自分の生活を支えていることに気付く。 ・高齢者とのかかわり方を考えたメッセージを準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に育つまでに地域の人々に育まれてきたことを振り返らせる。一方、現状の生活では世代や国籍の異なる人々も住む地域で生徒が社会の形成者の一人としての自覚を持つようにさせたい。また、高齢者とのかかわりから学んだことを生かして将来への展望が持てるように促す。 	ワークシート 高齢化率など著しく増加しているので適宜数値を更新して紹介する。	< 知識・理解 > 家庭生活は地域との相互関係で成り立っていることが分かる。 < 思・判・表 > かかわりを通して将来を展望することの大切さが分かる。

3. 学習指導計画の解説

●題材設定の理由

少子高齢化、グローバル化が著しく進み、持続可能な社会の構築が求められる中で、新学習指導要領の「家族・家庭生活」には、高齢者の身体の特徴に触れること、高齢者の介護の基礎に関する体験的な学習ができるよう留意することがあげられている。これまで高齢者に関しては高校で深く扱っているが、急速な高齢化の進展から中学生としても高齢者に関心を持ち、自分の成長にかかわってくれた人

として、また、家庭生活や地域を構成する人として高齢者理解に結びつけたい。

さらに、中学生の時期は人の成長過程でも心身ともに変化の大きい時期であり、第二次反抗期から素直な自己表現がしにくい生徒もいるが、自分の成長を支える家族や地域を客観的にみることで、現状を肯定し将来への展望を持つよう本題材を設定した。

4. 使用教材（ワークシート）、題材・活動例

●使用教材（ワークシート）

各時間にワークシートを使用する。1時間にA4 1枚は少なめなので、じっくり考えさせたり、場面によってはロールプレイングなどを取り入れて考えさせたりするのもよい。

家庭科プリント

一年 組 課 長 氏 名

中学生と家族とのかわりについて考えよう

◎中学生になった今の気持ちをまとめておこう。
◎あなたが、ほっとできる場所はどこですか。
・家 ・学校 ・景や音 ・田の中 ・図書館など ・その他 ()
◎家族でしゃべりすることはありますか。
・よくある ・時々ある ・あまりない ・ない
◎家族で買い物や食事に出かけることはありますか。
・よくある ・時々ある ・あまりない ・ない
◎家族は自分の気持ちをわかってくれますか。
・当てはまる ・当てはめてはまる ・あまり当てはまらない ・当てはまらない
◎家族での生活は楽しいですか。
・楽しい ・まあ楽しい ・あまり楽しくない ・楽しくない
◎中学生になって、家族とのかわり変わったことほどんなことだろうか。
()
◎これまで家族にしてもらって嬉しかったことはどんなことだろうか。
()

1. 小中学生の子どもを持つ親に対し自分の子どものお手伝いの頻度は、介護協会のネットエジリアのアンケートによると右図のようであった。

(1) あなたが行っているお手伝いは何ですか。
()
(2) どうして中学生の頻度が低いのだろうか。
①生活時間考えると… ()
②発達段階から考えると… ()
③役割、第二次反抗期、人間関係の悩み
→家族は、裏切れる中学生の心を受け止められる～

2. 私たちの成長を支えてくれる家族と過ごす、家庭生活を送るうえで必要な活動にはどのようなものがあるか、話し合ってみよう。
(1) あなたの考え ()
(2) 友達との考え ()
(3) 上記の活動を分類し、私たちの家庭生活に必要な活動をまとめよう。
()

家庭科プリント

一年 組 課 長 氏 名

家族のはたらきを知って将来の自立につなげよう

◎私たちにとって家族や家族って、何？
家族のはたらき(機能)を解説しよう！
○ () を覚える。
○心の安定と () を得る。
○ () などの生活を家族とともに行う。
○ () を覚える。
○ () や兩人を介する。 など。
○日々の活動のエネルギーを蓄える。 など。

下の文の () の空欄には適する語句を記入しよう。

1. 家族のはたらきを支える仕事(家事)について、どのくらい知っていますか。
(1)どのような仕事があるでしょう。→直接収入は得られないがなくてはならない家族の仕事だね。
()
◎食生活(朝食・昼食・夕食、献立、調理、洗濯、掃除、ゴミ出し、その他) ()
◎衣生活(洗濯、洗濯物たたき、アイロンがけ、着替え、靴、その他) ()
◎住生活(掃除(風呂、部屋、庭)、新聞取り、窓の開閉、乾草、ゴミ出し、その他) ()
◎子ども(送り迎え、着替え、歯磨き、暖かかけ、その他) ()
◎その他(読書の紹介) ()

(2)上記の仕事を通じているのは誰でしょうか。()
あなたが今後、分担出来るような項目に○をつけてみましょう。

2. 家族のはたらきを支える仕事(家事)は、家族は社会とどのように関わっているか考えよう。
(1)《経済生活》の安定のために収入を得る仕事をしている。
(2)《生活》が経済的に安定していることで、生活を支える物資を整えサービスを利用できる。
(3)どこに住んでいても安心して《住居》が受けられる。

3. 家族の仕事を支える地域・社会の取組みについて考えてみよう。
※家庭内で行われていた家事が、時代の変化につれて電化製品や地域・社会の活動に移行しているものがある。このことを家族のはたらきの社会化という。
◎社会の側と、社会化によって家庭生活に時間や労力のゆとりができたことに気付き、中学生として何ができるか考えよう。

社会化の例	家庭生活を支える仕事、協力できること
食べること	家族の食生活
着ること	クリーニング店の活用
住まうこと	ハウスのクリーニング
育てること	幼弟の留守り
高齢者の介護	在宅サービス
	声をかける、手を助す

・考えた感想を記入しよう。
()

家庭科プリント

一年 組 課 長 氏 名

家庭生活と地域とのかわりについて考えよう

◎これまで、地域の人と協力して活動したことはありますか。
どのような関わりをもったことがあるか思い出してよう。
どのようなことか ()
その時の気持ち ()
→日常の地域の人のとさやかな挨拶から勇気をもらったこともあるかもしれませんね～

1. 家庭生活と地域の人々とのかわりについて考えよう。
(1) 私たちは家族・家庭生活に加えられ、地域の人々との繋がりの中で暮らしています。下の図にそのイメージを書き込んでみましょう。

<地域間交流体験活動>
児童生徒にとって、地域間交流体験活動は、学校を離れ地域やそこに住む人々との交流を通じて、豊かな人間性や社会性を培い、様々な力を身につけることができる重要な機会である。

<兵庫県神戸市立向洋中学校の例>

(2)中学生は、一日の大半を学校で過ごしていますが、学校も地域の活動拠点の一つです。右図を見て地域の大人や中学生とかわることが中学生にどのように影響しているか考え、記入してみよう。

(3)地域の《住居》や《住居》の異なる人々との交流は、相互理解を深めることにつながる活動。

2. 中学生と地域の活動について考えよう。
(1)地域では、どのような活動が行われているだろうか。
()
(2)中学生に期待される地域の活動を調べよう。
()

3. 地域の高齢の方とかわりについて考えよう。
◎日本の高齢化率は20%を超えていますが、高齢者と暮らす中学生は減少しています。この機会に改めて高齢の方からお話を聞き、お返事のメッセージを考えよう。
-元気な高齢の方もいれば介護の必要な方もいます。どのような方に話を伺いますか。
()
-おじいさん、おばあさんへ100字で送るメッセージ！どうぞ！
()

4. 今回の授業から、自分の将来に見通しをもつことができましたか。
()

●題材・活動例

本題材の配当時間は3時間が目安であると示したが、2時間に統合して行うことも考えられる。3時間の場合には課題解決を目指して、6人程度までのロールプレイングなどの演習を取り入れるとよいが、2時間の場合には個人作業と少人数での話し合いを基に進めることで時間を短縮して取り組ませることもできる。

1. 学習の目標

- ・栄養バランスのよい1食分の献立作成や段取りを工夫した手順表作成, 用途に応じた食品の選択計画ができる。
- ・安全と衛生に留意し, 食品や調理器具を適切に取扱い, 食品の特質を考えた調理ができる。
- ・地域の食文化を理解し, 和食の調理をこれからの食生活に活かそうとする。

2. 学習指導計画

	配当時間	学習内容と活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題設定	2 時間	1 調理の意義を知り, それを満たす条件について考え, 学習の目標や流れ, 評価基準を知る。 「安全で衛生的な調理」とは何かを考える。 「環境に配慮した調理」とは何かを考える。 「手際のよい調理」とは何かを考える。 2 「五感とおいしさ」の関係について考える。	4~5人の調理班を編成する。5つの役割分担(班長・材料・用具・食器・整備)を説明し, 係のローテーション表を完成させ, 協同する意欲をもたせる。 ヒントカードを見て調理の必要性について理解する。 調理写真を掲示し, 「安全」「衛生」「環境」「手際」の視点から実習の注意点を気付くようにする。 視覚・嗅覚・聴覚・触覚・味覚とおいしさの関係が確認できる体験を通して, 五感とおいしさの関係を実感をもって学べるようにする。	プレゼンソフト 大型モニター ヒントカード調理実習冊子 調理実習の写真 ①グミ試食 ②だしの試飲 ③盛りつけの違う写真 ④咀嚼する音の視聴 ⑤ゆで加減の違う野菜の試食	成長と心身の健康維持のための食事作りに取り組み意欲をもつ。 (学びに向かう力・人間性) 調理に必要な「安全」「衛生」「環境」「手際」「おいしさ」の条件を知る。 (知識・技能)
計画 1	1 時間	3 「野菜の調理」の計画	自分の住む地域の食文化や地域の食材のよさに気づき, 理解できるようにする。 手順表を基に自分の担当する作業を付箋に書き, 計画表を作成させる。	手順表 計画表	安全でおいしく調理をするための工夫や時間の見直しをもった調理計画ができる。 (思考力・判断力・表現力)
実践および評価・改善 1	3 時間	4 「包丁使いとだしの基本」 調理例: 大根のみそ汁 大根を使ってかつらむきと繊切りを体験する。 昆布と鰹節の混合だしの取り方を学ぶ。 5 「野菜の調理」 調理例: けんちん汁 野菜の扱いの注意点と切り方のコツを学ぶ。 6 「実習の振り返り1」 2 回の実習を振り返り, よりよい調理実習の方法を見つけ出す。	小学校の学習を振り返りながら調理の基本を学ばせる。 地域による味噌汁の違いを知ることができるよう, グループで味噌を変え, 飲み比べをさせる。 野菜の切り方の過程を実物大の写真で示すか, タブレットで確認できるようにする。 調理手順表や調味料分量表をマグネットで調理台に留めておくなど合理的な調理環境を整える。 2 回の実習を「安全」「衛生」「環境」「手際」「おいしさ」の視点から振り返り, 課題を洗い出し, 次の実習の計画につなげさせる。	タブレット タイマー レシピ表 指示書 調理実習冊子 タブレット タイマー レシピ表 指示書 調理実習冊子 実習記録写真 またはビデオ調理実習冊子	調理に必要な包丁使い, 計量, 調味, 火加減の基礎を知り, 適切に調理できる。 「おいしさ」と五感の関係を体感する。 (知識・技能) うま味の食文化や地域による食文化の違いを知る。(知識・技能) 実習を振り返り課題を見つけ, 次の調理に活かす方法を話し合い活動で深め, よりよい方法を見つける。 (思考力・判断力・表現力)
計画 2	1 時間	7 「魚の調理」の計画 調理例: ムニエル 付け合わせ: マッシュポテト	材料に適した加熱の仕方に生徒が課題意識をもって調理に向かえるよう工夫する。 計画に沿って調理ができているかを観察する。また, 火加減・安全・衛生・環境・手際・おいしさへの配慮について助言する。	タブレット タイマー レシピ表 指示書 調理実習冊子	実習を振り返り課題を見つけ, 次の調理に活かす方法を話し合い活動で深め, よりよい方法を見つける。 (思考力・判断力・表現力)
実践および評価・改善 2	2 時間	8 「ムニエルの実習」 9 「実習の振り返り2」	各班で今まで習得した調理技能と「安全」「衛生」「環境」「手際」「おいしさ」が達成できたか検証させる。 生の魚・肉を扱う場合の衛生上の配慮ができているか注意深く観察する。 各班で実習を振り返り, 「学習の成果と課題」について報告させる。 魚料理か肉料理を主菜とした1食分の献立を立て1人で調理する手順を班ごとに検討し発表させる。	実習記録写真 またはビデオ調理実習冊子	食品の特質を知り, 調理の要点を理解することができる。(知識・技能) 「おいしさ」と五感の関係を体感する。 (知識・技能)
計画 3	1 時間	10 「肉の調理」の計画 調理例: シュウマイ 付け合わせ: 中華サラダ		プレゼンソフト 大型モニター	
実践および評価・改善 3	3 時間	11 「シュウマイの実習」 12 「実習の振り返り3」 13 「調理実習のまとめ」			豊かな食生活を送るために学んだことを活かそうとする。 (学びに向かう力・人間性)

3. 学習指導計画の解説

五感を使って調理することは「おいしさ」を追求するうえで欠かすことができない。今回は「課題の設定」の場面で体験型授業「おいしさの秘密」を行い、生徒が「おいしさ」を意識して調理に取り組めるようにした。

全体を13時間で構成したが、生徒の実態に合わせ、2学年に分けて指導することも可能である。

また、実習内容は1時間で行えるものを選択した。併せて日本の食文化のよさに気づき、和食の文化を継承する気持ちをもつことができるように計画した。

最初に調理の基礎・基本が学習できる調理内容とし、技能を反復して学ぶことができるようにした。

また、「知識・技能」を着実に向上させるために「簡単なものから複雑なもの」へ、「1品から付け合わせのある1品」の構成になっている。

また、調理実習に楽しみながら参加するうちに生徒が自分の課題に気づき、課題の解決や改善方法を仲間と協力し

ながら取り組むことができるように計画した。併せて、仲間と話し合いを重ねて行くことで「学びに向かう力」や「思考力・判断力・表現力」が深まっていくことが期待できる。

調理実習後、「家族のための食事作り」や「行事食・郷土料理作り」を「生活の課題と実践」につなげ、学校での学びを生活に役立てる場面を設定するとともに家庭での実践結果を授業に戻すことで学びが更に深化することが期待できる。

時間内で調理を終えるためには生徒の実態に合わせ、事前の準備を工夫する。

時間内に試食ができない場合は密閉容器を持参させ、昼食時に食べるなど試食への配慮も必要である。

また、食物アレルギーの確認と対応は必須である。事前に使用食材を記載したお知らせを配布し、保護者の承諾を得るとより丁寧である。養護教諭との連携も必要となる。

4. ワークシート

最初の授業で全授業のワークシートを冊子にして配布し、学習の目標や内容・評価規準をよく理解させる。ワークシートには授業の学習課題や各自の学習課題を記入する欄や自己評価や他己評価などの欄、それらを基に改善案を盛り込んだ調理計画を作成できるように工夫する。

調理実習の計画では班で調理内容の組み合わせが相談できるように切り抜いて貼る、または付箋に書き貼り付けるなど時間の節約ができる工夫をする。変更する場合は赤字で記入あるいは、矢印で示すなど思考の過程が確認できるようにするとよい。

調理実習計画表【調理名：シュウマイ・中華風和え物】 (組 班)

魚の調理での振り返りを行い、班の調理の取り組みを客観的に捉え、課題を設定する。

学習課題

- ・「蒸す」調理の特徴を知ろう。
- ・ひき肉をおいしく調理するコツを知ろう。
- ・肉の衛生的で安全な調理方法を身に付けよう。

【調理手順】

	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50		
シュウマイ	①調味料A, 調味料Bを計量する。 ②蒸し器の下端に水上段に敷き紙を置く。		③ボールに豚ひき肉を入れ、調味料Aを加え、よく混ぜる。 ④卵を加え、更に混ぜる。		⑤調味料Bを加え、更によく混ぜる。 ⑥玉ねぎ、片栗粉、胡麻油を加えてよく混ぜる。		⑦蒸し器の下端を火にかける。 ⑧シュウマイの皮でひき肉餡を包む。		⑨蒸し器の上段に包んだシュウマイを並べ、下段と合わせ、ふたをして約8分間蒸し、盛り付ける。		試食	片付け	点検
中華風和え物	①ボールに水をため、青菜を洗う。 ②鍋に湯をわかす。		③湯が沸騰したら青菜を茎から入れ、茹でる。 ④水にとり、冷ます。		⑤調味料を計量しボールに入れる。 ⑥青菜の水を絞り4cmの長さに切る。		⑦⑤のボールに切った青菜と雑魚を入れ和える。 ⑧器に盛り付ける。						

※この実習では玉ねぎは冷凍みじん切り玉ねぎ、または市販のみじん切り玉ねぎを利用する。

①担当する作業番号(シュウマイは赤、中華風和え物は青)を場所別に書き込みましょう。また、それぞれの調理の要点も書き込みましょう。

②4つの視点について話し合ったことを色別の付箋に書き貼りしましょう。 「おいしさ」(桃色)「安全・衛生」(青色)「環境」(緑)「手際」(黄)

	0	5	10	15	20	25	30	35	40
班長 ()									
材料 ()									
用具 ()									
食器 ()									
整備 ()									

・自分が担当する工程を事前に決め、いつ、何をすればよいか明確にする。
・各工程に必要な「おいしさ」「安全・衛生」「環境」「手際」のポイントを考える。

課題意識をもった主体的対話的で深い学び

片づけチェック表を作成し、協力して主体的に片付けができるようにする。

1. 学習の目標

- ・衣服等の再利用の工夫（アップサイクル）を考え、製作計画を立てることができる。
- ・目的に応じた縫い方や用具の安全な取り扱いを理解して製作ができる。
- ・自分の製作が自分や家族、地域の人々の生活を豊かにすることや資源や環境を守ることにつながることを実感し、これからのよりよい生活に活かそうとする。

2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1.5 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の目標と流れ、評価基準を知る。 2. 「生活の豊かさ」とは何かを考える。 3. アップサイクルとは何か、アップサイクルのアイデア、材料、具体例等を調べて情報を共有する。 	<p>「グループを『会社』と仮定して、企画・製作したアップサイクル作品の『いいね!』の数の合計で会社を表彰する」というしかけをして、話し合い活動や製作に意欲を持たせる。</p> <p>「生活の豊かさ」については、マインドマップに記入させる。学習の過程で随時追加の書き込みをさせ、変容をみとる。</p> <p>調べ学習はジグソー学習形式にして、タブレットを使用する。そのテーマは、教師が指定しておく。</p>	<p>ワークシート</p> <p>プレゼンソフト・大型モニター</p> <p>ジグソー学習 タブレット 10 台 タイマー</p>	<p>衣服等をアップサイクルして生活を豊かにする製作に意欲を持つ。 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>アップサイクルに必要な材料、方法などを知る。 【知識・技能】</p>
計画	1.5 時間	<ol style="list-style-type: none"> 4. 製作のコンセプトを考える。 5. 製作計画を立てる。 6. 製作計画等をよりよくする話し合いをする。(企画会議) 7. 製作計画を完成させる。 	<p>材料（古着等）を各自準備させる。材料が準備できない生徒もいるので、地域や家庭に協力を依頼し、ある程度の材料を用意しておく。</p> <p>企画会議は、グループ全員の製作計画等がよりよくなるように、より多くの「いいね!」を目指して話し合いをさせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>デジカメ</p> <p>話し合い活動 タイマー</p>	<p>アップサイクルの工夫や、時間の見通しをもった製作計画ができる。話し合い活動で考えを深めることができる。 【思考力・判断力・表現力】</p>
実践 および 評価・ 改善	5 時間	<ol style="list-style-type: none"> 8. 用具の安全な使い方を確認する。 9. 製作する。 10. プレゼンの準備をする。 11. プレゼンをする。「いいね!」・表彰 12. 振り返りをする。 	<p>製作時間は3時間とする。</p> <p>用具の安全な使い方は、示範、掲示物や DVD などで確認させる。</p> <p>プレゼンのリハーサルをさせる。</p> <p>プレゼンはジグソー班で発表する。より多くの共有ができるようにメンバーを変えて2回プレゼンさせる。相互評価として「いいね!」シールを貼らせる。</p> <p>自分の生活や社会に関連付けて学習の振り返りができるようにする。</p>	<p>裁ちばさみの使い方 示範 アイロンの使い方・ミシンの使い方の 掲示物・DVD ワークシート 教科書 ジグソー班決めくじ 材料・作品の写真 プレゼン発表 「いいね!」シール (ドットシール) 表彰シール タイマー</p>	<p>時間内に、適切な方法で製作できる。用具を安全に使うことができる。 【知識・技能】 製作の目的や工夫点などをプレゼンできる。 【思考力・判断力・表現力】 これからの生活に活かそうとする。 【学びに向かう力・人間性】</p>

3. 学習指導計画の解説

アップサイクルとは、不要になったものに工夫を加えて価値を高めることで、「資源や環境に配慮すること」「持続可能な社会の構築」を考える学習にふさわしいキーワードと考え、タイトルとした。

「グループ（3～4人）を一つの『会社』と仮定、『企画会議』で製作計画等を検討し、最後に完成した製品のプレゼンをして売り込む」という学習設定をした。このような設定により、楽しみながら製作意欲すなわち「学びに向かう力」を高め、話し合い活動が活発となり「思考力・判断力・表現力」を深化させることができる。可能であれば、地域のイベント等で実際に展示・販売する計画ができることさらに効果的である。作品展への出品も有効である。

何を作るか（目的）と何で作るか（材料）の2点を同時に考えるのが難しい場合は、どちらかを条件設定するとよ

い。例えば、目的を「幼児（高齢者）とのふれあい活動でプレゼントするもの」に、材料を「Tシャツ」と設定すると製作計画が比較的立てやすい。

調べ学習は、タブレットが全員にない場合を想定して、同じテーマについて調べる生徒が集まり一緒にタブレットで調べた後、元のグループに戻りその情報を共有するジグソー学習形式とした。タブレットが使用できない場合は、情報カードなどを事前に用意しておくことで代用できる。テーマは生徒の状況に応じて教師が設定するとよい。

プレゼンをクラス全体ではなく、少人数のグループ（4～5人）で行うことで比較的発表がしやすくなる。時間の許す限り、メンバーを変えてプレゼンの回数を多くすると、たくさんの情報を共有することができる。

4. ワークシート

最初の授業で全授業のワークシートを冊子にして配布し、学習の目標や内容・評価規準をよく理解させる。

毎時間の目標を「今日のゴール」として、授業後のあるべき姿をわかりやすく示した。話し合い活動の記録をとる欄を設けたり、アドバイスによって変更した計画は赤字で記入させたりして思考の過程を振り返られるようにした。

評価① 【学びに向かう力・人間性】

評価④ 【学びに向かう力・人間性】

評価② 【思考力・判断力・表現力】

評価⑤ 【学びに向かう力・人間性】

1. 学習の目標

- ・住居の機能と安全な住まい方について、実践的・体験的な活動を通して基礎的・基本的な知識および技能を身につけることができる。
- ・学び合いの活動を展開することで、様々な考えを共有しながら、学習を深めていくことができる。
- ・20 年後の生活に視点を向け、学び合いの活動を通し学習を深めていくことで、健康・快適・安全で豊かな住生活を工夫し創造しようとするすることができる。

2. 学習指導計画

	配当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1 時間	<ul style="list-style-type: none"> ○「住居の機能と安全な住まい方」7 時間の学習の流れを掴む。 ○健康・快適・安全で豊かな住生活への課題をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なじみの深いアニメキャラクターの家族と住空間との関わりを例に挙げながら住生活学習に興味を持たせる。 ・小学校と中学校の内容の整理しておく。 ・住まいのはたらきでは、p151 の 1 図も確認しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や幼児の登場するアニメを用いる ・小中の学習のつながり ・p149,150,151 	
計画	4 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 共に住まう、家族の生活と住空間の関わり 2 家族の健康と室内環境 3 家庭内の安全 4 災害(地震)を想定した住まい方 	<ul style="list-style-type: none"> ・p152 の住まいを活用しながら様々な考え方をクラス交流で共有する。 ・班でカビ、ダニ、CO、一酸化炭素の空気汚染を分担し、間取りを活用して健康に配慮した住まい方を考える。 ・4 つの想定家族(高齢者夫婦、幼児2人を含む家族、幼児と高齢者を含む家族、車いす活用者を含む家族)の安全を考えた住空間の整え方を考える。 ・1/50 にした個人の空間に、ベッド・机いす・タンス・本棚等に分けた色画用紙の家具を配置し、クラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・p152 の A 4 版拡大写真(班数) ・p154 の A 4 版拡大写真(班数) ・p152 の A 4 版拡大写真(班数)、想定家族 ・p152 洋室 6.5 畳の空間 1/50 の家具 	<p>住居の機能と安全な住まい方について理解している(知識・技能)</p> <p>自分の考えをわかりやすく伝えたり、友だちと考えを共有し合い、学習を深めている(思考力・表現力・判断力等)</p>
実践 および 評価・ 改善	2 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1 家族の安全を考え豊かな住生活を送るための「具体策」と「理由」を考える。 2 20 年後の住生活へ向けた考えをクラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20 年後をイメージし、安全な住生活の整え方を考える。 ・具体策一つひとつに理由を考え、「なぜだろう」と考えを深める。具体策は、付せんに書いていく。 ・枠組み作りの活動では、自分の考えた理由を仲間に伝えることを意識させる。 ・矢印で枠組みの関係を結び、コメントも入れさせる。 ・クラス交流を通して、学びを評価・改善の時間とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付せん一人 5 ~ 10 枚くらい ・色違いのサインペンを用意しておけば書いた人がわかる ・模造紙 1/2, マジック, 枠組みタイトル用の付せん 	<p>家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫し創造しようとしている(学びに向かう力・人間性)</p>

3. 学習指導計画の解説

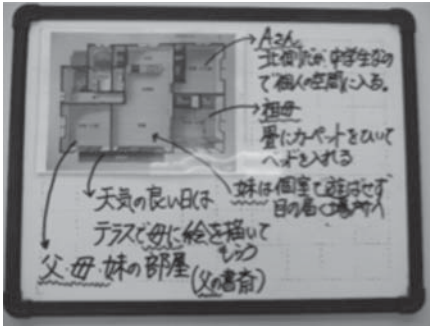
●題材設定の理由、授業計画へのねらい、学び合い学習へのアドバイス

- 健康・快適・安全で豊かな住生活に向けて考え、基礎的・基本的な知識および技能を身に付け、学び合い活動を通して住生活の課題を解決する力を養う。また、20年後の豊かな住生活を目指し、工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとして本題材を設定した。
- 1つの間取り図を活用して、健康・快適・安全で豊かな住生活への考えを、学び合いの学習を進めながら、様々な意見を聴き合うことで学習を深めていく授業計画にしている。
- 1コマ50分間授業で展開できるように授業の流れをつくる。話し合いは「発表者・進行役・記録者・協力者」と役割分担させ班活動への意識を持たせる。発表会での共有の時間は、新しい学びの知識を記録させることと学習の振り返りをおこなう時間を確保することでさらに深い学びへ導く。

4. 使用教材（ワークシート）、または題材・活動例

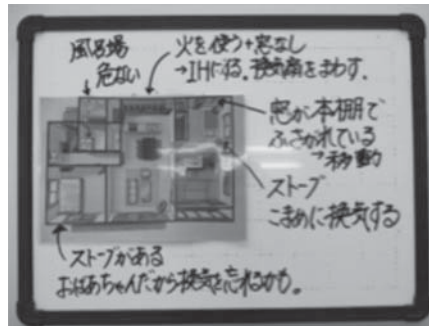
2/7 時間目

家族の生活と住空間の関わり



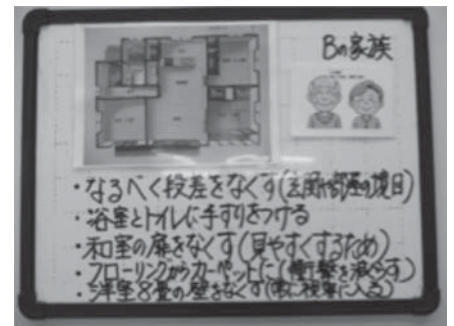
3/7 時間目

家族の健康と室内環境



4/7 時間目

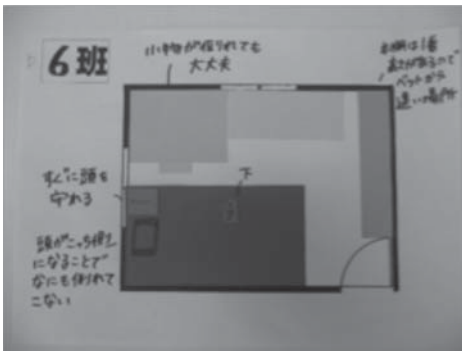
家庭内の安全



ホワイトボードにラミネートしたA4版の写真を添付して、班の話し合いに活用した。屋台村方式の交流会を5分×3回のローテーションで設定すると、班員全てを発表者に行うことができるため、班内での話し合いもクラス交流を意識して更に意欲的な活動となることを期待できる。

5/7 時間目

災害（地震）を想定した住まい方



- 教科書 p152 洋室 6.5 畳を自分の部屋としてイメージする
- 教具の実際の大きさ例（ベース B4 版）
洋室外枠（16.5cm × 22.5cm）、ベッド（赤 8 × 14cm）、
本棚（緑 2.5 × 11.5cm）、机（水色 6 × 8cm）、
いす（水色 2.5 × 2.5cm）、タンス（黄 4 × 9cm）
その他・災害時に必要なもの（紫 4 × 4cm）
☆周りには工夫点をマジックで書き込めるスペースを空ける

6,7/7 時間目 20年後の住生活に向けた考えをクラスで共有する

一枚ずつ「理由」を確認する

- 安全な住まい ⇨ 高齢者を守る
- 安全な住まい ⇨ 安心な生活
- 安全な住まい ⇨ 住む人を大切に

タイトル名と枠組みの配置

関わり説明文

タイトル名

① 全ての付せんを使う。
1枚でもタイトル名をつける。

タイトル名

安全

快適

安心

災害

安全

安心

快適

安心

付せんを活用した枠組み作りの活動は、「具体策」と「理由」を考えることで、付せんを通して仲間の考えを聴き合い、考えを共有しながら学びを深めることができる。

～お金を賢く管理できる人になろう～

購入や支払いについての知識を身につけ、判断力を鍛えよう

6時間

教科書該当ページ p.214 ~ 227

1. 学習の目標

- ・多様化した購入方法や支払い方法の特徴が分かる。
- ・生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れをつかみ、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理の必要性を理解する。
- ・消費者被害が発生する背景、回避する方法、適切な対応の仕方について理解する。
- ・持続可能な社会の構築等の視点から情報を収集・整理し、物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等を考え、工夫する。

2. 学習指導計画

	配当時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題設定	2時間	<p>家族が生活するために購入する物やサービスにはどのようなものがあるかを知る。</p> <p>グループごとに、課題の解決方法を考え、発表する。</p> <p>課題の解決方法を考えることを通して、支出にはニーズとウォンツがあることに気付く。</p>	<p>ある5人家族〔父・母・高2・中3・小6〕の1ヶ月の収入と支出の例を示す。この例をもとにして、(収入は増やせない)以下のような課題をそれぞれのグループに1つずつ分担し、解決方法を考えさせる。</p> <p>課題(例):</p> <p>①高2の子は、アーティストのコンサートにいきたい。 ②中3は、スマホがほしい。 ③小6は、ゲーム機がほしい。</p> <p>解決方法は何をどうするかと理由をはっきりさせる。</p>	<p>5人家族の収入と支出の表 ワークシート</p> <p>グループ学習 解決方法のワークシート</p>	<p>生活に必要な物資・サービスについての金銭の流れをつかみ、計画的な金銭管理の必要性を理解している。</p> <p>【知識・技能】 計画的な金銭管理の必要性を理解しようとしている。 【学びに向かう力・人間性】</p>
計画	2時間	<p>「消費者アクションゲーム」で消費者トラブルを疑似体験しながら、具体的な解決方法を知る。</p> <p>ゲーム終了後、印象に残ったトラブルや解決法、疑問点を発表する。</p>	<p>「消費者アクションゲーム」は、勝敗に拘らず消費者トラブルや被害を防ぐ方法を考え、ワークシートに記入しながらすめさせる。</p> <p>発表を聞きながら、ワークシートに記入させる。ゲストティーチャーへの質問をまとめる。</p>	<p>グループ学習 消費者アクションゲーム</p> <p>グループ学習 ワークシート</p>	<p>多様化した購入方法や支払い方法の特徴を理解している。</p> <p>【知識・技能】 消費者被害発生の背景、回避する方法、適切な対応の仕方を理解している。 【知識・技能】</p>
実践および評価・改善	2時間	<p>消費生活センターの消費生活相談員等をゲストティーチャーとして招き、クレジットカードの仕組みや、トラブルの例、対処法等を具体的に学ぶ。</p> <p>これまでの学習をもとに家族や周りの大人と話し合ってきたことを発表し、交流、評価しあう。</p>	<p>前回のゲームで得た知識を実際の事例と繋げるようにする。対処法の例は、ロールプレイング等で学ぶ。これまで学習したことの中で、家族や周囲の大人に伝えたいことをまとめる。</p> <p>自分が伝えたかったこと、家族や周囲の大人がどのように反応してくれたかを発表させる。</p>	<p>消費生活相談員(ゲストティーチャー) ロールプレイング まとめのワークシート</p>	<p>持続可能な社会の構築等の視点から情報を収集・整理し、物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等を考え、工夫しようとしている。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】</p>

3. 学習指導計画の解説

●題材設定の理由

新学習指導要領では金銭の管理に関する内容が新設された。多様化する購入方法や支払い方法がある中で、キャッシュレス化した金銭の流れを把握し、生活に必要な金銭を計画的に管理する力を身につけることが迫られている。また、消費者被害が低年齢化し、その被害を回避するためにはトラブルの基本的構造やその問題点を理解し、必要な情報の適切な収集・整理ができる力が必要になっていることから本題材を設定した。

●この授業計画についてのポイント

- ①家族が生活するために必要な金銭を扱うことにより、支出にはニーズとウォンツに気付くようにした。
- ②「消費者アクションゲーム」の疑似体験を通し、消費者被害発生の背景、対処方法等を具体的に理解できるようにした。
- ③消費生活センターの消費生活相談員等の専門家と連携することで、より具体的実例や対応の仕方を学べるようにした。
- ④学習したことを家族や周囲の大人に伝えることにより、学びを深め、今後の改善点につながるようにした。

4. 使用教材（ワークシート）、または題材・活動例

●使用教材

ある5人家族〔父・母・高2・中3・小6〕の1ヶ月の収入と支出の例を示し、家計上の課題についての解決方法をグループごとに考えさせることにより、計画的な金銭管理の必要性を理解させたい。

家族の生活に必要な金銭について考えよう

1. ある家族（Aさん一家）の、ある1ヶ月の収入と支出の表をもとにして、Aさん一家の課題についての解決方法をグループで考えよう。

Aさん一家の構成メンバー（5人） 父・母・高2・中3・小6

■手取り収入		■支出内容	
夫 およそ	380,000	食費	65,000
妻 およそ	50,000	外食	10,000
合計	430,000	住居費	55,000
		水道・光熱費	20,000
		電気・ガス・水道	20,000
		家事用品	5,000
		洗剤・ティッシュペーパー等	5,000
		被服・贈物	15,000
		子どもの服	15,000
		クリーニング代	3,000
		保健・医療	5,000
		病院・薬代	5,000
		床屋・美容院	15,000
		交通・通信	10,000
		固定電話・インターネット代	10,000
		スマホ・携帯	15,000
		車ローン	15,000
		駐車場代	10,000
		ガソリン代	10,000
		教育費	50,000
		塾・習い事	60,000
		教養・娯楽	5,000
		新聞	5,000
		趣味	12,000
		その他	10,000
		親戚入学祝い	10,000
		父親小遣い	40,000
		支出合計	430,000

■課題

①高2の子は、アーティストのコンサートにいきたい。(チケット代8,000円)

②中3の子は、スマホがほしい。(月額6,400円)

③小6の子は、ゲーム機がほしい。(代金30,000円)

■解決方法 (自分で考えた分)

課題番号	理由

その解決方法を考えた理由を書こう

●班の中で発表し合い、班員の解決方法を下の表にメモしながら、解決方法を深めよう。班として発表したい解決方法を決めよう。

班員名	何を	どうするか	理由

●班として発表する解決方法を一番上の欄に記入しよう。その後、他の班の解決方法を聞いて、下の表にメモしよう。

班	課題番号	何を	どうするか	理由
月の班				

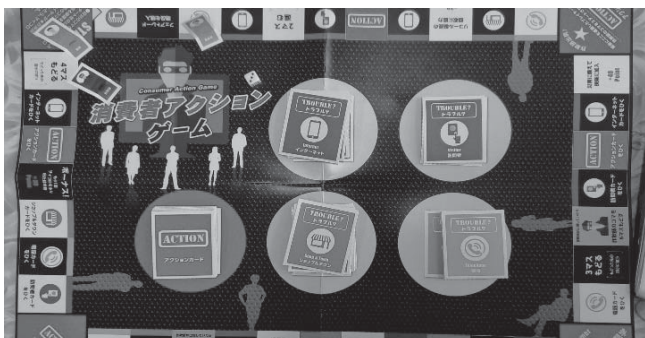
●この学習から分かったこと、今後に生かしたいことを書こう。

()年()組()番 氏名()

●題材・活動例

「消費者アクションゲーム」は、最近のインターネット関連の消費者トラブルや高齢者を狙った詐欺の事例を扱い、被害にあわないための方法や行動（アクション）を考えるボードゲームで、3～5名で行う。

「消費者アクションゲーム」で消費者トラブルを疑似体



験しながら、具体的な解決方法を知ることができる。アクションカードを参考に消費者トラブルや被害を防ぐ方法を考え、ワークシートに記入しながらすすませる。特に、カードを引いたら、そのカードの内容を読み上げて確認し、ワークシートに記入することが大切で、ゴールすることが優先するものではないと生徒に伝える。ゲームの終了は、全員が「ゴール」でも「制限時間」でも可能なので、授業時間の長さにあわせて行うことができる。ゲームボードの裏面には契約クイズもついているので、ゲーム前にチャレンジしてもよい。ゲーム終了後に印象に残ったカードの発表をさせ、まとめとする。

公益財団法人 消費者教育支援センター発行
(2015年10月)

一日家事体験

B(7) ア

2~3 時間

教科書該当ページ p.14~16 p.36~41 p.90~127
p.175~187 p.152~ p.236~
p.246~250

1. 学習の目標

- ・家族や家庭，衣・食・住生活，消費や環境の学習を振り返り，問題を見出したり，課題を設定したり，計画を立てることができる。
- ・家事体験の実践を通して，成果や課題解決をまとめ，発表や生活の改善することができる。

2. 学習指導計画

	担当 時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具例	資質・能力
課題 設定	1~2時間	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を振り返り，家事の種類や取り組みを話し合う【班活動】 ・家族や家庭（基本的な機能） ・食生活（献立作成，調理） ・衣生活（洗濯，手入れ） ・住生活（住空間の整え方，安全） ・消費や環境（選択と購入，金銭管理，3 R） ※アクティブラーニング <ul style="list-style-type: none"> ○課題を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の学習から，家事の取り組みや工夫，問題点を考えさせる ※アクティブラーニング ・各家庭や生徒のプライバシーに配慮し，個人の課題を設定させる 	見本や事例 ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を営む機能を理解している（知・技）
計画		<ul style="list-style-type: none"> ○実践計画を立てる ・家事の取り組み，課題解決を考える ・消費活動を工夫する <ul style="list-style-type: none"> ○発表計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境や安全に配慮した計画にさせる 	ワークシート 画用紙	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に課題を捉え，計画や実践をしようとしている（学びに向かう力・人間性）
実践		<ul style="list-style-type: none"> ○実践する ○プロセスや結果をまとめる ・一日の家事の取り組みと課題解決 ・自分と家族の評価と感想 ・環境や安全への配慮 			
評価・ 改善	1時間	<ul style="list-style-type: none"> ○発表する ・質疑応答，評価を聞く ○評価を受けて改善する【班活動】 ・評価を参考に，よりよい生活のために改善策を考える ※アクティブラーニング <ul style="list-style-type: none"> ○家庭に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT（書画カメラ，電子黒板，タブレットなど）の活用で，効果的に発表させる ・短時間で共有し合えるよう時間を配分する 	書画カメラ電子黒板 タブレット ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・成果と課題をまとめ，工夫し発表できる（思・表・判） ・改善した課題を生活に活かそうとしている（学び～・人間）